

第20回

発掘展

～夏休み！子どものための考古学～



市内大矢知町で見つかった久留倍官衙遺跡では、飛鳥時代から平安時代（約1350～800年前）にかけての建物の柱穴が数多く見つかっています。

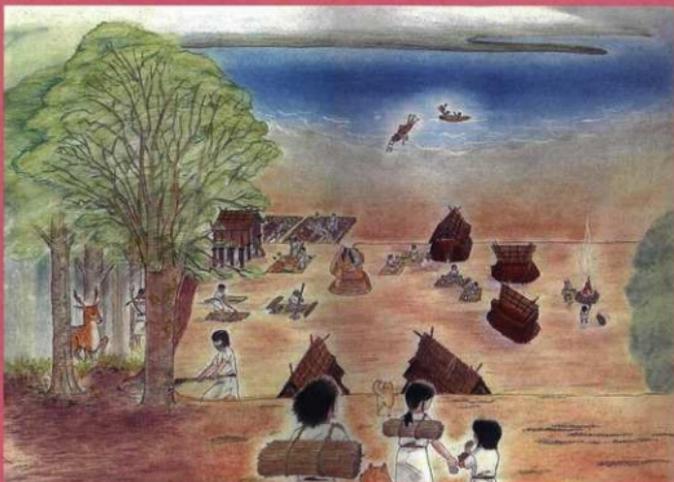
この復元イメージのイラストは、飛鳥時代から奈良時代の初めごろ（約1300年前）の役所の様子です。政庁（イラストの右下部分）と呼ばれる役所の中心的な建物が丘陵の上の方に建っていました。



く り べ かんが いせき
久留倍官衙遺跡

ふくげん
復元イメージ

やよいじだい くるべいせき
弥生時代の久留倍遺跡 (約 2000 年前)



弥生時代の久留倍遺跡の様子

同じ久留倍で見つかった遺跡で、弥生時代(約 2000 年前)にあったムラの一つが確認されています。

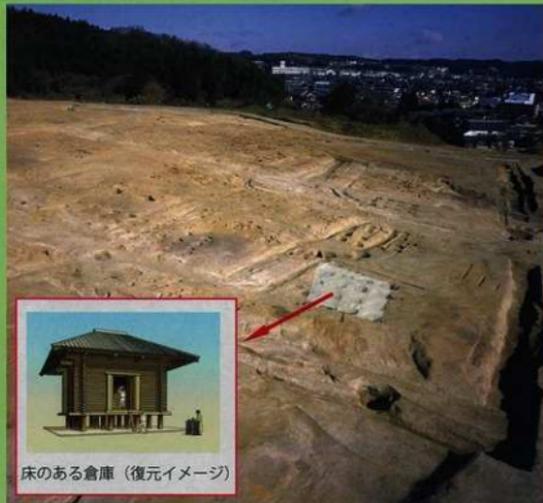
久留倍遺跡では、当時の人びとが生活に使っていた道具類が数多く見つかっています。



弥生土器 つぼ 壺

貯蔵に用いられた土器です。壺の表面は、模様をつけて飾られています。

あすか へいあんじだい くるべいかんがいせき
飛鳥～平安時代の久留倍官衙遺跡 (約 1350～800 年前)



床のある倉庫 (復元イメージ)

遺跡の変遷

- ①飛鳥時代から奈良時代の初めごろ 表紙のイラストのような建物が建つ。
- ②奈良時代の中ごろ 長大な建物を中心とした建物群が建つ。
- ③奈良時代の終わりごろから平安時代 区画溝に囲まれた正倉(倉庫)群が建つ(左の写真は、発掘当時の様子)。

建ちならぶ正倉群と区画溝の様子(右端の溝が区画溝の一辺)

久留倍遺跡のなかでも、特に飛鳥～平安時代(約 1350～800 年前)の役所跡は重要な遺跡であることから国の史跡に指定されました。

国の史跡に指定された部分を久留倍官衙遺跡と呼んでいます。現在、史跡公園として整備するため、工事を行っています。



奈良時代の円形硯 円面硯

奈良時代の円形の硯です。1点のかげら(右下)だけですが、本来の形がわかります(左上は復元レプリカ)。

古墳時代の上野1号墳 (約1400～1350年前)



上野1号墳の石室 (北から)

市内大字西阿倉川で新しく発見された古墳です。古墳時代(約1400～1350年前)に造られた横穴式石室(長さ6.5m・幅1.6m)がある古墳で、この地域としては比較的大きな古墳であったと推定されます。石室の石は、砂岩で、員弁川上流域から運ばれてきた青川石と呼ばれる石です。



石室内から土器が出土した様子



石室内から見つかった小さな玉

平安時代末から室町時代の上野遺跡 (約850～500年前)



水がわいてきた井戸 (南から)

平安時代末～室町時代(約850～500年前)にかけての道具や生活の跡も見つかりました。写真の井戸は、深さが2.5m以上もあり、発掘調査中には水がわいてきました。



わきょう
和鏡

12世紀に日本で造られた鏡です。銅などの材料を鑄型に流し込んで造られた鏡です。

コラム 和鏡が展示されるまで

和鏡が発見された後、さび落としの作業をするため、X線(レントゲン)撮影をしました。鏡の背面(裏面)に模様がある可能性があったからです。すると、菊花に鳥の図柄が見えました。なお、鏡の成分は、銅・スズ・鉛などが含まれていました。



鏡を置く



画面で観察する



X線撮影した鏡

えどじだい よっかいちだいかんしょあと
江戸時代の四日市代官所跡 (約410～150年前)

現在の市内中心部は、享保9（1724）年～享和元（1801）年の大和郡山藩（今の奈良県）領時代を除くと江戸時代を通じて天領（幕府領）でした。

四日市代官所は幕府領支配の拠点で、市内北町の中部西小学校の場所にありました。なお、代官所の建物は明治時代になると、三重県庁等として使われていましたが、明治9（1876）年にすべて焼失しました。



明治時代に描かれた代官所の絵 水谷百碩画

四日市市立博物館蔵



代官所の堀にかかっていた橋の橋脚（手前が代官所）

第20回 発掘展～夏休み！子どものための考古学～

- ◆会期 平成29年7月26日（水）～9月24日（日）
- ◆場所 四日市市立図書館 2階展示コーナー
- ◆編集 四日市市教育委員会 社会教育課
- ◆発行 四日市市教育委員会 平成29年7月26日



げた
下駄

高さが5.5cmもある下駄です。裏面の歯は、同じ板から造られています。



ござら
小皿

ナスの絵が描かれた小皿です。夏らしい絵柄です。